

「豊かな人間性と社会性を育む兵庫型「体験教育」の充実に向けて」 (兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会報告の概要)

1 兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会について

(1) 設置目的

兵庫県が進めてきた「自然学校」「トライやる・ウィーク」をはじめとする多様な体験活動が、平成 21 年度の「環境体験事業」の全校実施により、兵庫型「体験教育」と言える体系的な体験活動として整備された。また、高等学校での「トライやる・ワーク」「インターンシップ推進プラン」が事業開始 5 年を経過した。これを契機として、兵庫型「体験教育」の更なる充実を図るため、評価・検証を行う。

(2) 設置期間 平成 22 年 6 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

(3) 委員長 梶田 勲一 環太平洋大学長

(4) 委員 16 名

(5) 検討経過 第 1 回委員会 平成 22 年 6 月 25 日
第 2 回委員会 平成 22 年 10 月 6 日
第 3 回委員会 平成 22 年 12 月 16 日

2 兵庫型「体験教育」主要 6 事業について

事業の名称	対象学年	実施時期・期間	活動内容	開始年度
環境体験事業	公立小学校 3 年生	年間 3 回以上	里山、田畑、水辺などにおける校外環境体験活動	H19
自然学校推進事業	公立小学校 5 年生	4 泊 5 日以上	自然の中での集団宿泊活動	S63
青少年芸術体験事業 ～わくわくオーケストラ教室～	公立中学校 1 年生	年間 1 回 (年間 40 公演)	兵庫芸術文化センター管弦楽団による鑑賞教室	H18
地域に学ぶ 「トライやる・ウィーク」	公立中学校 2 年生	6 月、11 月を中心とする 1 週間	地域における社会体験活動	H10
高校生地域貢献事業 ～トライやる・ワーク～	県立高等学校 1 年生を中心	年間を通じて 随時	クラス・部活動等グループ単位による地域貢献活動	H17
高校生就業体験事業 ～インターンシップ推進プラン～	県立高等学校 2 年生を中心	年間 3 日 ～ 5 日間程度	事業所等における就業体験活動	H17

3 兵庫型「体験教育」の評価について

- 小学校での環境体験、自然体験、中学校での芸術文化体験、社会体験、高等学校での奉仕体験、就業体験と、小学校から高等学校における各体験活動が、それぞれの発達の段階を踏まえた目的・ねらいをもって、体系的に進められている。

事業の名称	発達の段階を踏まえた評価
環境体験事業	現実性をもって死を理解するようになるなど、自然や生命を多面的に感じ取るようになる時期である小学校低・中学年の段階に、身近な自然の中で生命に触れる体験の意義は大きい。
自然学校推進事業	物事のある程度対象化して認識し、自己を明確に自覚する時期である小学校高学年の段階に、自然や人と触れ合う体験の意義は大きい。
青少年芸術体験事業 ～わくわくオーケストラ教室～	親や友達と異なる自分独自の内面の世界に気付く多感な時期である中学校の段階に、本物の芸術文化に触れる体験の意義は大きい。
地域に学ぶ 「トライやる・ウィーク」	未熟ながらも大人に近い心身の力を持ち、自分の生き方を考え始める時期である中学校の段階に、実社会に触れ、実社会を知る体験の意義は大きい。
高校生地域貢献事業 ～トライやる・ワーク～	社会人・職業人への現実的な移行準備の期間となる高等学校の段階に、自らの能力・適性をいかながら地域に貢献する体験や、主体的に進路選択するための就業体験の意義は大きい。
高校生就業体験事業 ～インターシップ推進プラン～	

- 「自然学校」「トライやる・ウィーク」をはじめとして、連続した長期の活動期間が子どもたちの成長に大きく寄与している。
- 地域住民や保護者等、多くの大人に支えられる体験が、子どもたちの自信・意欲につながっている。
- 兵庫型「体験教育」をモデルとして、新学習指導要領（平成 20 年 3 月改訂）に「体験活動の充実」が位置付けられ、全国的な広がりを見せている。

4 兵庫型「体験教育」の基本的な理念の整理について

兵庫型「体験教育」のこれまでの成果を継承しつつ、地域に根ざした兵庫らしい新しい教育の姿としての更なる充実を図るため、兵庫型「体験教育」の基本的な理念を整理した。

兵庫型「体験教育」は、子どもたちの豊かな人間性や社会性の育成、意欲の喚起をめざし、本物に感動し、絆に気付き感謝する体験活動を、多くの大人がかかわって展開するものである。

5 兵庫型「体験教育」の充実に向けて

小・中学校における体験活動の充実について

〔課題〕

- 兵庫型「体験教育」は、全国的に見ても長期間の体験活動が実現されていることや、地域が支える教育活動として高い評価を受けており、引き続き推進していくことが重要。
- 学校独自の体験活動が、地域や学校の実情に応じて幅広く実施されており、今後、6つの体験活動を軸として、各学校の創意工夫ある活動が効果的に実施できるよう支援することが重要。

〔方策〕

自然学校、トライやる・ウィークをはじめとする体験活動について、今後も長期の日数を確保しつつ支援を継続すること。

各学校・教員が子どもたちへの指導に、より多くの力を注ぐことによって活動内容の一層の充実が図られるよう、各体験活動に係る事務軽減等について検討を進めること。

各市町・学校の課題・実情に応じた独自の体験活動の一層の充実が図られるよう、ピッコロシアターやものづくり大学校体験施設等県立施設での体験活動機会を提供するなど、支援や情報提供を行うこと。

高等学校における体験活動の充実について

〔課題〕

- 高等学校段階における体験活動については、参加している生徒には職業観・勤労観や社会への参画意識を高める活動となっているものの、全ての生徒には活動が広がっていないため、今後より多くの生徒が参加できるよう取り組むことが重要。

〔方策〕

トライやる・ワークについては、全ての生徒が地域貢献活動に参加することを目標として中期的に取り組むこと。

インターンシップについては、より多くの生徒が参加できるよう積極的に取り組むべきであり、受入事業所の確保や実施時期等の工夫を行いつつ、職業教育を主とする専門学科においては、学科の特性を踏まえ、全ての生徒がインターンシップを実施すること、また、普通科等においては、全ての就職希望生徒及びインターンシップを希望する進学希望生徒がインターンシップを実施することを目標として中期的に取り組むこと。

高校生に自立と共生の能力を備えた社会人としての基礎を培うため、体験活動を柱として、道德教育やキャリア教育、その他今日的課題に対応した教育（福祉教育、環境教育等）を体系的に学ぶカリキュラムの検討を行うこと。

各学校における活動内容の充実について

各学校における体験活動の内容の更なる充実を図るため、以下の提言内容について、県は教員研修や広報等を通じて、学校等への周知を図ること。

系統性のある効果的な教育活動とするために

〔課題〕

- 教員は、他校種での体験活動を十分に意識していないため、系統的な教育活動となっていない状況にある。各体験活動をより意義あるものとするためには、兵庫型「体験教育」全体を見通して、子どもたちの成長を長期的な視点で捉え、系統性のある効果的な教育活動としていくことが重要。

〔方策〕

教員は、他の学校種での体験活動を意識し、各体験活動を系統的に捉えるとともに、子どもたちの成長する姿を「育みたい力(4つの力に整理)」等によりイメージし、共有すること。

自然や文化を大切にする感性 (生命尊重、自然愛護、芸術・文化を愛する心 など)	自立して考え行動する力 (基本的生活習慣、主体的行動、実行力 など)
多様な人々とかかわりあい、目標に向けて協力する力 (思いやり・協力、共に生きる姿勢、コミュニケーション能力 など)	社会をより良く変えようとする姿勢 (規範意識、公共心、勤労・奉仕、職業意識 など)

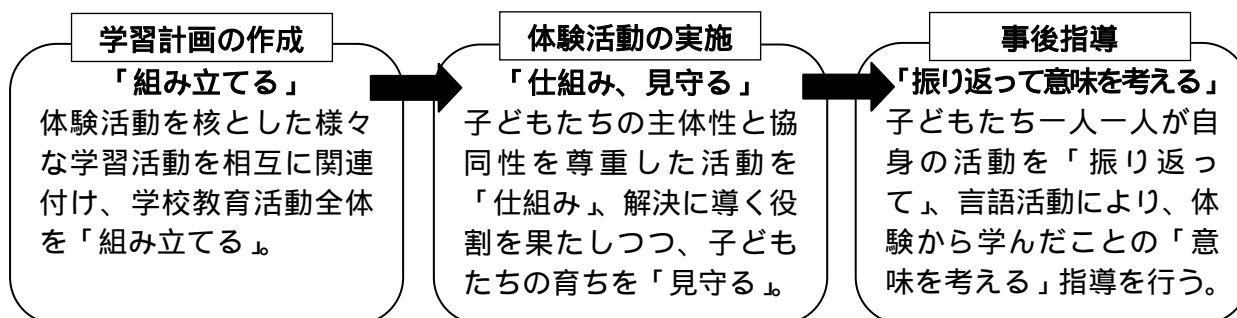
体験活動での学びをその後の生活や学習にいかすために

〔課題〕

- 各体験活動の実施時や直後には、体験活動での学びが子どもたちの意識に変化をもたらしている一方、その意識が継続して定着しているとは言い難い状況がある。このため、子どもたちの体験活動での学びをその後の生活や学習にいかすことが重要。

〔方策〕

教員は、体験活動での学びをその後の生活や学習にいかす指導の工夫を行うこと。



多くの大人がかかわる兵庫型「体験教育」とするために

〔課題〕

- 「トライやる・ウィーク」などでは、事業が定着しスムーズに実施されている中で「マンネリ化」という指摘があり、活動が行事化するなど、子どもたちの希望に応じた受け入れ先の確保が難しくなっている。子どもたちにとっては、それぞれ初めての体験活動であり、学校、家庭、地域の連携を一層進めていくことが重要。
- 子どもたちの日常生活全体の中での体験を豊かにする必要もあり、地域や家庭など学校外においても体験活動の充実を図ることが重要。

〔方策〕

学校・家庭・地域の日常的な連携を一層進めていくこと。

例えば、

- ・「トライやる・ウィーク」では、教員が分担して事業所等を訪問し、共通理解を図る。
- ・教育委員会や学校は、体験活動の実施について、家庭や地域、関係機関や団体等に積極的に情報発信を行い、活動の趣旨やねらいについて共通理解を深める。

大人が子どもたちと体験を共有する姿勢で、家庭や地域での体験活動の充実を図ること。

例えば、

- ・自治会の清掃活動や祭りの伝統行事など、子どもたちが大人と触れ合う機会の充実を図り、参加を促す。
- ・家庭でのお手伝いや家族でのキャンプなど、家庭内での体験や家族と共に行う体験の機会を増やす。